

平成 28 年 6 月 5 日実施
「裁判所職員採用試験総合職」
(家庭裁判所調査官補)

心理学分野

【答案例】

平成 28(2016)年

「裁判所職員採用試験（総合職）」

《家庭裁判所調査官補》

～ 今年の心理学分野の総評 ～

今年度、数年ぶりに出題者が変わり、新たに森津太子先生になった。どのような意図で今年の問題が決まったのかは出題者のみの知るところであるが、端的に言って、「基本」に戻ったという印象である。易しかった、という印象を持つ人も多かっただろう。しかし、易しいと感じられる問題が出た時ほど、油断しないようにしたい。出題テーマが基本的で書きやすいものであるほど、「文章力」や「日本語運用能力」が際立つからである。家裁調査官では、文章力や論理能力が重視されるため、試験が簡単に思われても、「獅子は兎を捕えるにも全力を尽くす」(陸九淵)の精神で、細部まで気を遣ってより内実のある答案を作成したいものである。

心理学担当講師 高橋美保

第1問 心理学概論

知覚の恒常性について、具体例を挙げながら、400字以内で簡潔に説明せよ。

【記述のポイント】

- ・最初は、「知覚の」恒常性についての説明を意識すること。冒頭で「遠刺激」「近刺激」という言葉を使ったのは、「知覚」の恒常性を一度に説明するにはこれを使うのが一番手っ取り早かったからである。もちろん、遠刺激の代わりに「現実の空間内の物体自身の特性」と書いてもよいし、近刺激の代わりに「感覚器官に与えられた刺激作用」と書いてもよい。
- ・具体例は、各自好きな恒常性を挙げればよいが、大きさの恒常性が一番ポピュラーか。
- ・解答例では「距離を求めて大きさを算出」と書いているが、これはギブソンの生態学的知覚論の考え方とは異なる、一般的な計算理論的な考え方である。
- ・解答例では字数を埋めるため、エイムズの部屋の話を出したが、必ず触れなきゃいけない話ということではない。月の錯視でもよいし、こういう例も各自好みで適当に挙げるとよい。

[解答例]

われわれが認知する物体の特性は、近刺激よりも、遠刺激の特性にあてはまるように知覚される。これを知覚の恒常性という。知覚の恒常性には、大きさ、形、色、速さ、音など、様々なモダリティで生じる。

具体例として、大きさの恒常性を挙げる。大きさの知覚は、近刺激(網膜像)の大きさのみに依存せず、様々な周囲の情報から対象物までの距離を求め、そこから大きさを算出していると説明される。10m 先にいた友人が2m 手前まで近づいてきたら、網膜像としての友人は大きくなるが、友人が巨大化したとは知覚されず、遠くにいた時と同じ大きさで知覚されるのは、このためである。

他方で、大きさの恒常性が破綻する現象もある。「エイムズの部屋」がその一例である。この歪んだ部屋の中では、距離情報の手がかりが曖昧になり、網膜像が大きさ算出の手がかりとなる。このため、知覚対象となる人物が現実とかけ離れた大きさに知覚されてしまうのである。(396 字)

参考：鹿取・杉本・鳥居 心理学第5版 東大出版会／石口彰 視覚 (キーワード心理学シリーズ1) 新曜社

第2問 臨床心理学

テスト・バッテリーを組むことの意義及び留意点について、400字以内で簡潔に説明せよ。

【記述のポイント】

- ・テストバッテリーの「意義」、なぜ複数の心理テストを組み合わせたことが大事か、を明確に描く。
- ・バッテリーを組む際の「留意点」を適確に押さえること。テストを実施するときの留意点ではないことに注意。

[解答例]

テスト・バッテリーとは、臨床心理的アセスメントにおける心理テストの組合せのことである。

心理テストは各々特有の理論的背景があり、測定の際に焦点化される側面がテストによって異なる。このため、単一のテストでクライアントの全体像を明らかにすることは困難である。クライアントの多面的理解のためには、投影法、質問紙法など複数のテストを組み合わせたことが求められ、そこにテスト・バッテリーの意義がある。

原則としてテスト・バッテリーには決まった組み合わせはなく、クライアントの特性やアセスメントの目的に応じてその都度考慮されるべきものであるが、教育や精神医療の現場では定型的なテスト・バッテリーが考えられている。

テスト・バッテリーを組む際の留意点としては、被検査者への負担を最小限にし、最大の情報を得るためにも、必要以上に多くの数のテストを用いないこと、検査者が十分に習熟したテストを用いること、などが挙げられる。(399字)

参考：上里一郎監修 心理アセスメントハンドブック 西村書店／坂野雄二編 臨床心理学キーワード 有斐閣

第3問 社会心理学

観察学習について、A. バンデューラが行った幼児の攻撃行動に関する研究を例に挙げながら、400字以内で簡潔に説明せよ。

【記述のポイント】

- ・ 実験の内容を書くことでいっぱいにならないこと。あくまで「例に挙げて」です。
- ・ 観察学習(モデリング)の説明と実験の説明とのバランスを考えること。

[解答例]

観察学習とは、学習者が直接的な強化を受けなくとも、モデルの行動を観察するだけで、その行動型を習得する学習のことである。

バンデューラは、観察学習の過程を、①注意、②保持、③運動再生、④動機づけ、の4つに分けた。④の動機づけには様々な強化がかかわるが、特に、モデルの行動が賞や罰を受ける代理強化の効果を調べた実験がよく知られている。

この実験において幼児は、モデルの攻撃行動が、罰される映像を見る群(罰群)、褒められる映像を見る群(賞群)、攻撃行動だけを見る群(統制群)の3群に振り分けられる。映像視聴後の幼児の行動を観察した結果、罰群の幼児において攻撃行動が特に少なかった。他方、賞群と統制群においては、同程度に攻撃的な行動が見られた。

このことからバンデューラは、モデルの行動を観察するだけで新たな行動型が習得されること、習得された行動の遂行に、代理強化が重要な役割を果たすことを主張した。(394字)

参考：有斐閣心理学辞典／鹿取・杉本・鳥居 心理学第5版 東京大学出版会

第 11 問 教育心理学

E. H. エリクソンの発達理論における「青年期の発達課題」について、400 字以内で簡潔に説明せよ。

【記述のポイント】

- ・エリクソンのライフサイクル理論の「アイデンティティ達成」と「アイデンティティ拡散」を正確に記述すること
- ・上記以外は、400 字の枠内で何を付け加えてもよい。エリクソンのライフサイクル理論という枠組みをしっかりと記述する中で「アイデンティティ達成と拡散」を書いてもよいし、マーシャのアイデンティティステイタスを書いても悪くない。

[解答例]

エリクソンのライフサイクル理論は、生涯発達に 8 段階からなり、各段階に「心理・社会的危機」と呼ばれる発達課題がある。

青年期の発達課題は「アイデンティティ達成 対 アイデンティティ拡散」である。アイデンティティとは、自己の連続性と斉一性の感覚であり、それは他者との相互作用の中で育まれ、他者からも認められるものである。また、「自分とは何者か」「どう生きていくか」という問いへの答えでもある。その後、獲得されたアイデンティティに基づいて、その後の生き方、ライフコース等が選択されていく。このように、アイデンティティはエリクソンの理論の中核概念である。

青年期には、それ以前の各段階ごとに獲得してきたものを踏まえ、アイデンティティが様々な形で模索されるが、アイデンティティ達成に失敗した場合は、アイデンティティ拡散となる。アイデンティティ拡散の状態は、いわば自己喪失であり、希望の喪失、理想の拡散などが生じる。(398 字)

参考：誠信心理学辞典／有斐閣心理学辞典／エリクソン，小此木啓吾訳編 自我同一性 誠信書房